

【目標削減率達成のための推進体制】

<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ法に基づくエネルギー管理体制のもと、エネルギー使用状況を確認している ・デマンド電力の監視により、デマンド電力を抑制している

【排出量削減のためのこれまでの主な取組】

工場等の名称	取組内容
東岡山工場、藤田工場、妹尾工場、東岡山工場、本社	(29年度実施分) 各工場でのデマンド監視による節電意識の向上を図る
藤田工場	(30年度実施分) 県外工場建設・本格稼働により、岡山県内工場の稼働の分散化 (令和元年度実施分) 照明設備のLED化 県外2工場の生産設備の強化により、岡山県内既存工場での生産量の分散化 (令和2年度実施分) 藤田工場 冷蔵冷凍庫の室外機の設備更新 (令和3年度実施分) コロナ禍の売り上げに比例して生産量を調整し、生産設備の動作を抑えることで、使用電力を削減した

工場等の名称	措置内容
全社	<ul style="list-style-type: none"> ・OA機器の節電とこまめな消灯の再徹底 ・業務の効率化、残業削減の取り組みの推進による消費電力の削減 ・設備更新（老朽化設備更新、効率化機械の導入検討）

【森林保全等吸収源対策への取組計画】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入計画】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房設備の使用電力低減のため、クールビズ運動に取り組んでいる ・定時時間を考慮したパソコンの自動シャットダウンによるパソコンや照明および空調電力の削減 ・削減目標において、原単位基準を選択した理由は、温室効果ガス排出量と生産金額が密接な関係にあり、売上高に応じて両者は比例して増加することが予想されるためである。 ・温室効果ガス排出量において、CO2排出量計算書の電気の排出係数が誤ったまま計算していたため、正しい係数を用い、基準年度（令和3年度）の温室効果ガス排出量の値を修正した。
